



第 57 回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、櫻木結衣さんにご紹介いただいたこの方は、「**地元で愛されるラーメン屋さんを守り続けるスゴイ人**」とのこと。インタビュアーは江藤 裕一でお届けします。

【今回のスゴイ人】

喜楽食堂

佐澤 ヨシ子さん



今回は、財部町にて「喜楽食堂」を経営されている佐澤ヨシ子さんにお話を伺いました。

佐澤さんは財部町で生まれ育ちました。昭和24年に同じく財部町出身のご主人と結婚され、山口県に住まわれます。当時、佐澤さんは4人のお子さんの子育てに奮闘し、ご主人は夜、ラーメン屋の屋台を引いて商売をされていました。

昭和38年頃、屋台での飲食の販売は衛生面などで、営業が難しくなってきたこともあり、店を構えることを考えたそうです。故郷への想いも募らせ、山口県で作ってきたラーメンの味を財部でも広めようと「喜楽食堂」開店します。佐澤さんもお主人と一緒にお店に立ち、配膳などの仕事でご主人をサポートしながら、「喜楽食堂」を切り盛りされてきました。

しかし、平成4年にご主人が亡くなり、佐澤さんご自身がお店を運営していくことになりました。「仕込みやスープの入れ替えなど

重いものを持ちたりするのがとても大変だった。でも、まわりの家族に助けられ、やってこられました。」当時は妹さんにも手伝ってもらいながらラーメンを作っていたそう。

平成23年頃からは消防組合の仕事で退職した息子さんと夫婦や娘さんが主体となってお店を運営していきます。90代になり玄孫やしゃごもいる佐澤さんは体調を見ながら今もお店に出ています。

「お客さんといろいろな話をするので、元気をいただいているのですね、なるべく店に出るようになっています」とエプロン姿でにつこりと話してくれました。

文字通りの家族経営というだけではなく、ご主人から佐澤さん、そして息子さんへ引き継がれ、またその周りにいるご家族が一丸となつて守っている「喜楽食堂」の味。長年の積み重ねと佐澤さんご一家の地域への想いがたくさん詰まった味なのだと感じました。

